



# 企業の社会的責任 とはなにか？ → CSR と環境経営の「新結合」 および”noblesse oblige” について

NPO法人環境経営学会会長

埼玉大学客員教授

三田 和美

(2005/1/21)



# まえがき

- ◆ 世界は「大地動乱の時代」(石橋克彦)にはいった。(70年周期説)
- ◆ 天変地異人妖の時代(自然環境と社会とは相互影響的であるーポジティブフィードバック)
- ◆ Japan-paper に見られるわが社会経済の姿(アングラ勢力の伸張・地下経済の巨大化)
- ◆ 新しいリスクマネジメント理論構築の必要性→確率論の限界(cf.シュレジンガーの猫)
- ◆ 「応用哲学」としての「砂山の理論」(要因蓄積の理論)→「イエローストーン・プリンシプル」
- ◆ 功利主義的CSR(道徳は生産力である)
- ◆ 環境経営とCSRの新結合



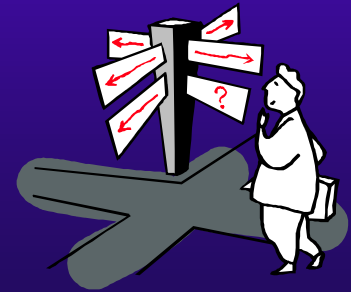
# 目次

1. CSRブーム
2. ACC (Abrupt Climate Change)  
→地球環境の「今そこにある危機」と  
ペンタゴン・レポート
3. WMD (World Mental Disorder)→  
人類は発狂しつつある
4. CSR (Corporate-Social-Responsibility)  
→「責任」の自覚＝規模の自覚(「メタ認知論」)
5. KME (Knowledge & Moral-based Economy)  
→未来への展望



CSRはサステナビリティを  
追求する世界の中で  
グローバルな  
社会的共通主観となった。

⇒但し、日本では、その  
解釈はまちまちで混乱  
している





# 混乱の実態

- ◆ 情報統制強化
- ◆ 組織論的対応
- ◆ 法令順守(コンプライアンス)中心主義
- ◆ リスク回避(公害移動)
- ◆ 単純課題主義(利潤・雇用)
- ◆ 評判ないし社会的信頼を直接獲得する手段(プロセスのネグレクト)



# グローバリズムの光と影

- ◆ 技術の巨大化と情報・交通技術の発達市場と企業経営のグローバル化をもたらし、成功した企業は史上かつて無いほどの資本集約力と人的組織力、物的装備力、権力ならびに社会的影響力を持つに至った。
- ◆ 一方で社会一般に対してグローバルな自然環境・生態系の破壊と内外の貧富の差の拡大、雇用不安、コミュニティの崩壊、社会倫理の混迷とニヒリズムの広範な浸透を及ぼした。「要因」はまさに蓄積されつつある。



# グローバルな自然環境問題の人工的要因

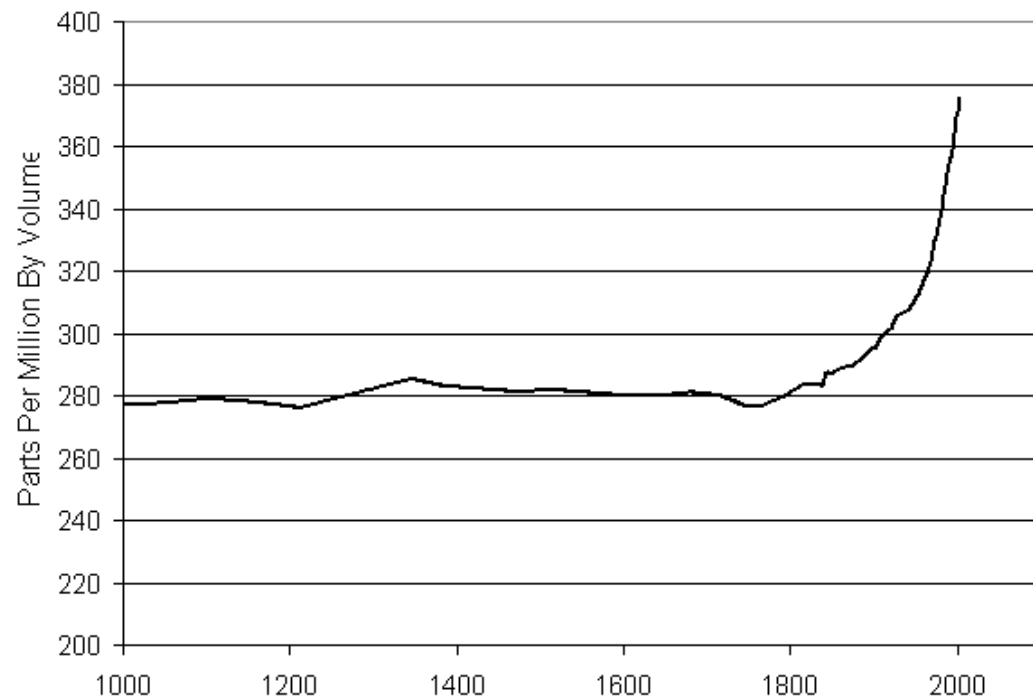
1. GHGs排出量の増大→地球温暖化
2. 人工化学物質による汚染→世界的な少子高齢化現象
3. 衛生環境の変化→感染症ビッグバンの危機
4. 経済開発および都市化の進行による生態系の破壊→「生命」の危機
5. THE DAY AFTER TOMORROW



# 大気中のCO<sub>2</sub>濃度



Atmospheric Concentrations of  
Carbon Dioxide, 1000-2003



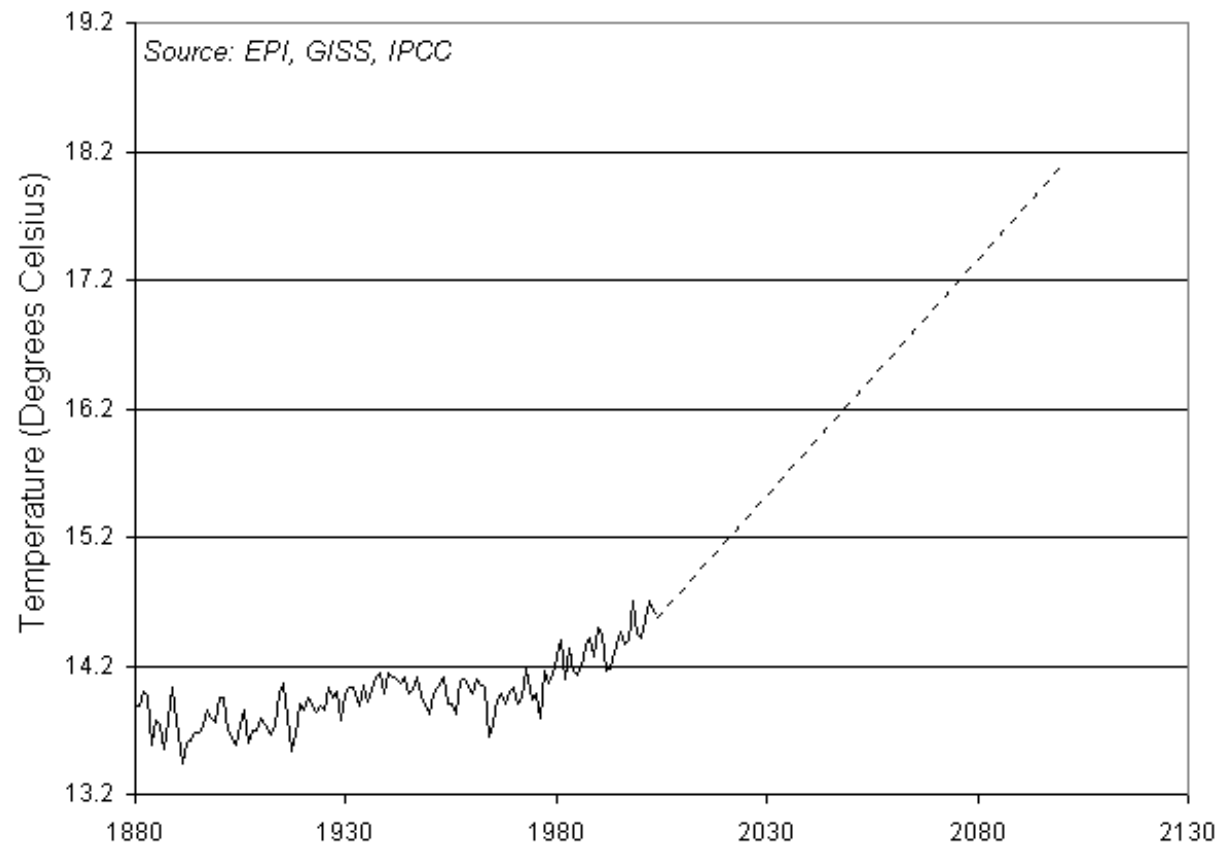
Source: Scripps, ORNL, and IPCC



# 地球温暖化の進行



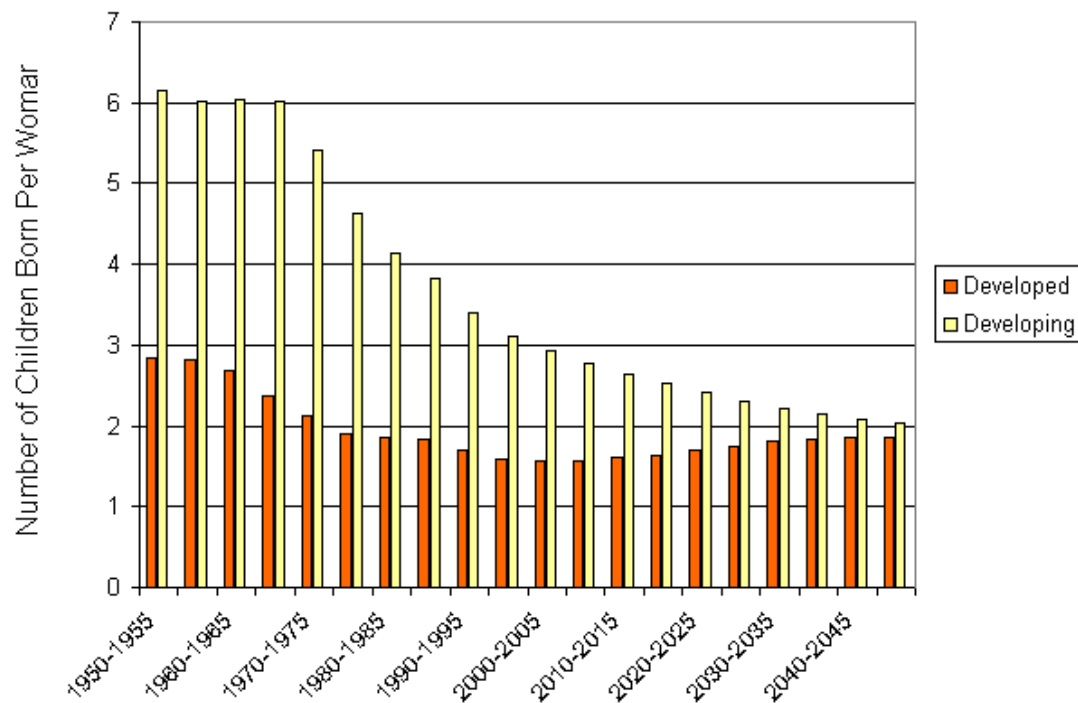
Average Global Temperature, 1880-2004,  
with Projection to 2100





# 世界的な出産率の低下現象

Average Total Fertility Rate in Developed and Developing Countries, 1950-2000, with Projection to 2050



Source: United Nations

## 2-1 Japan syndrome

既に始まっている水・食料・エネルギー欠乏の危機

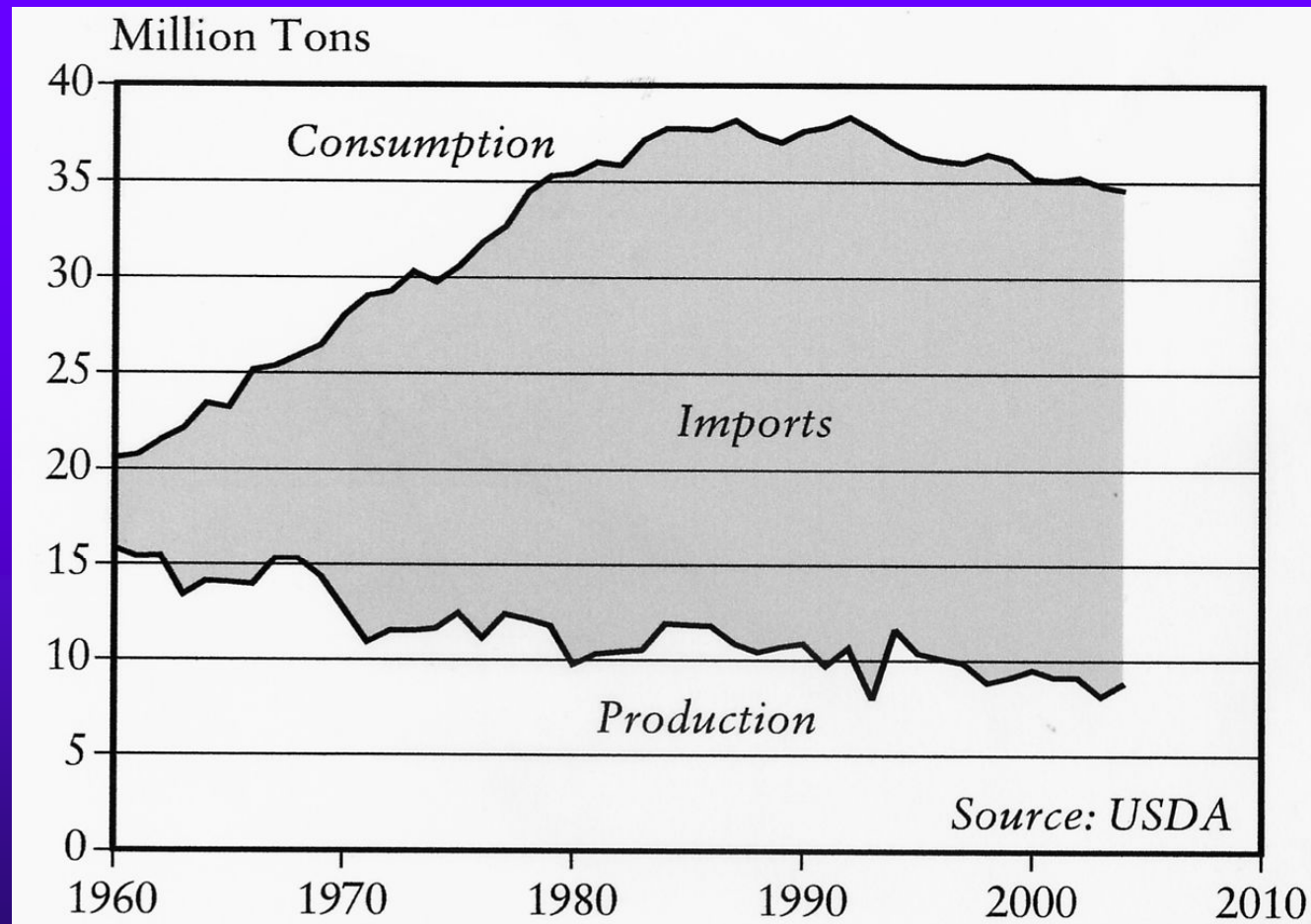
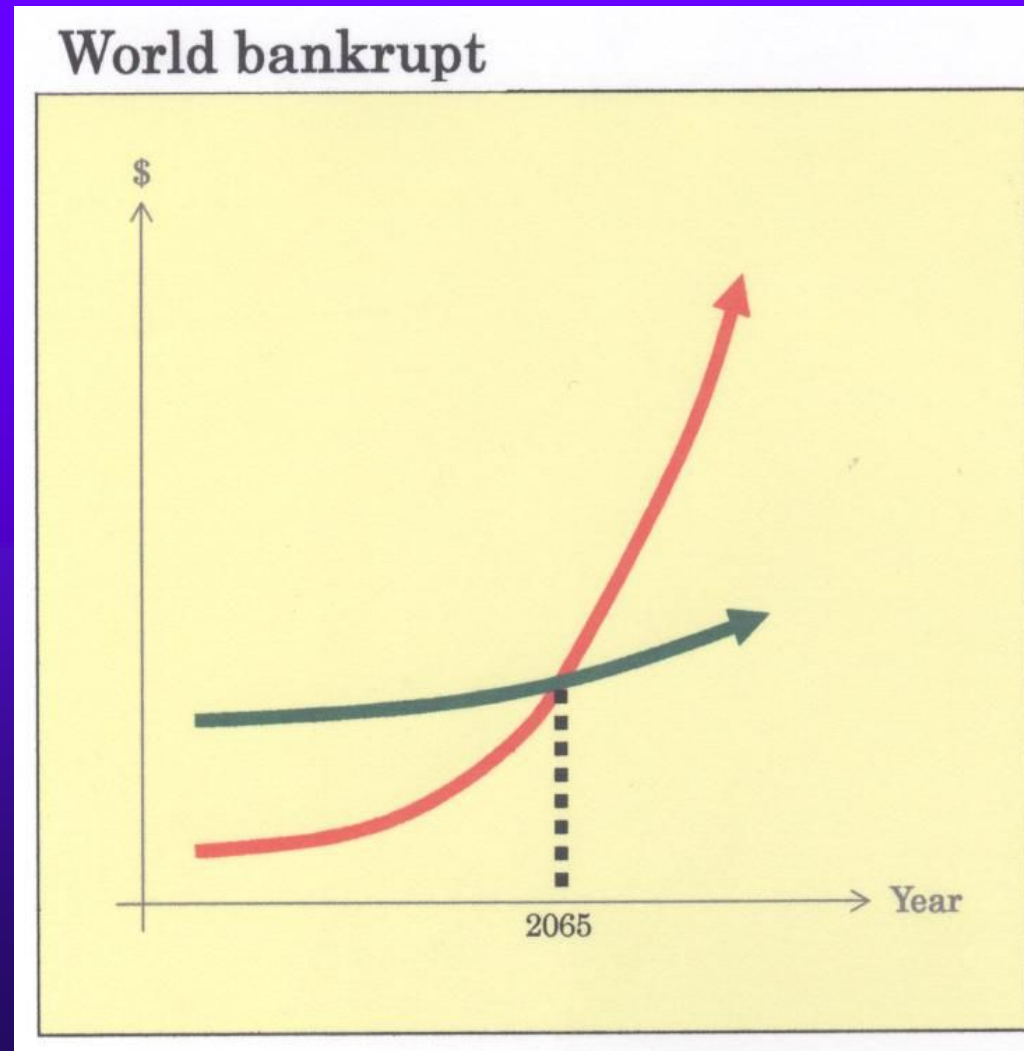
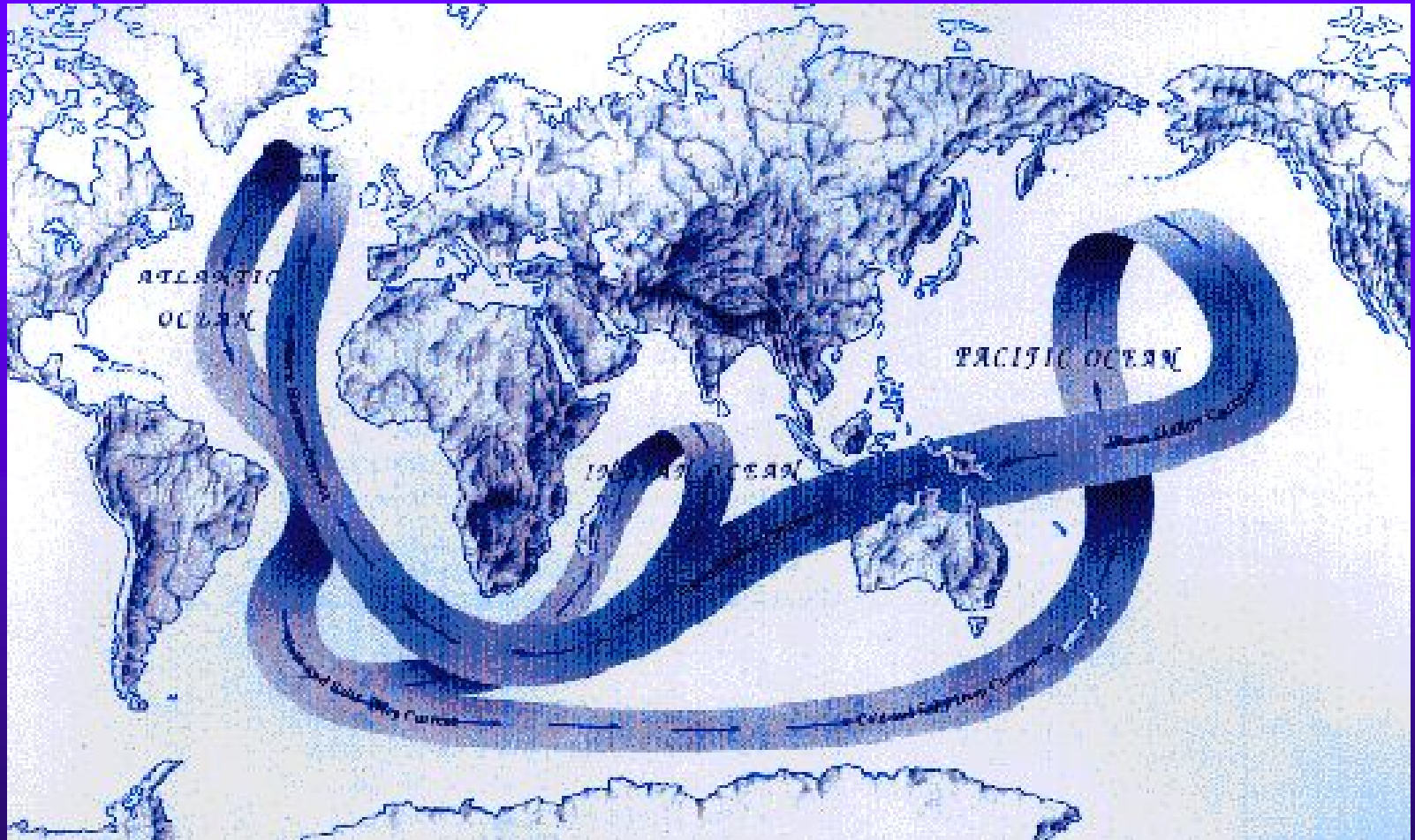


Figure 1-3. Grain Production, Consumption, and Imports in Japan, 1960-2004

## 2-2 人類総破産の見通し



## 2-3-1 ブロッカーのコンベアベルト

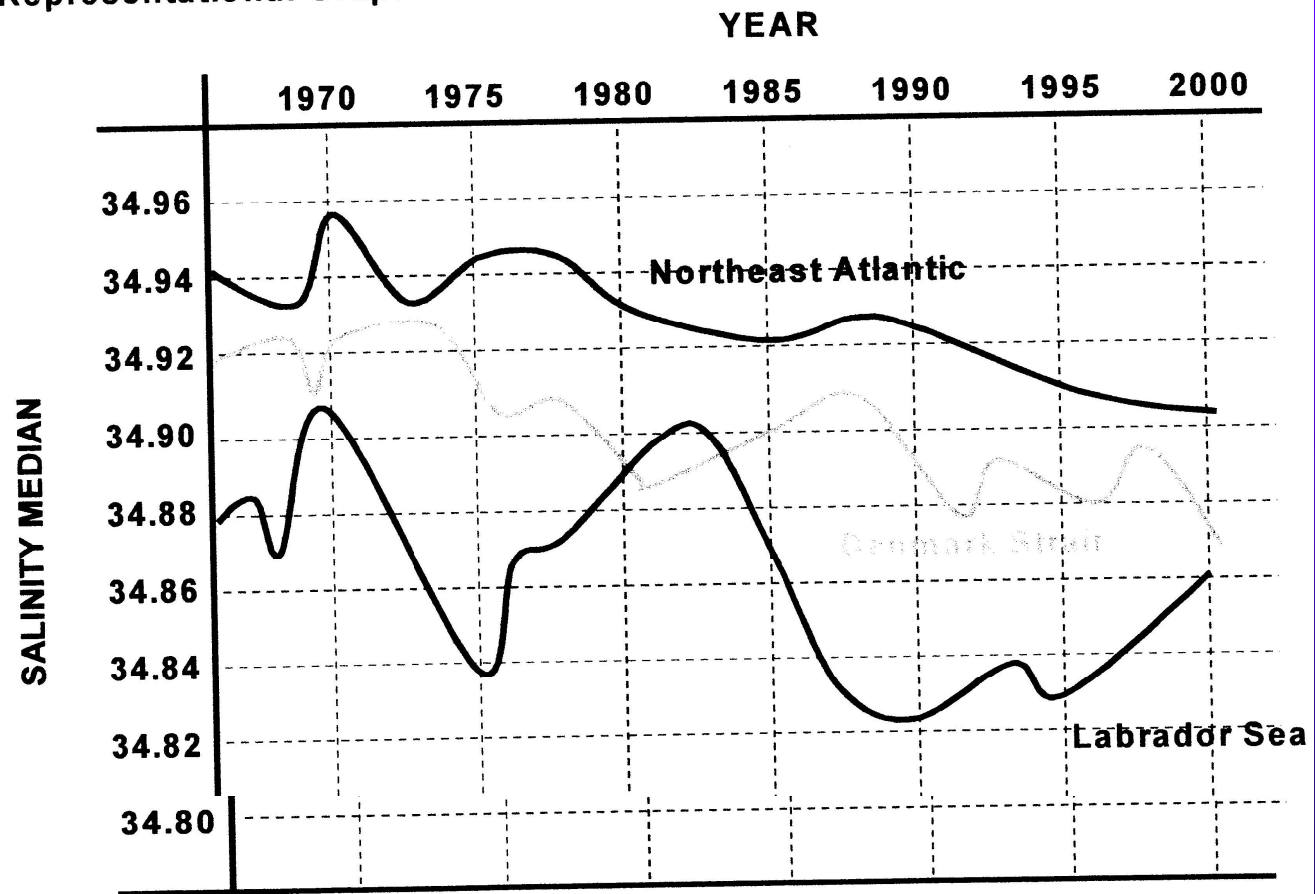






# 2-3-1-2 海水の真水化

Representational Graph



## 2-3-2 ACC下の世界

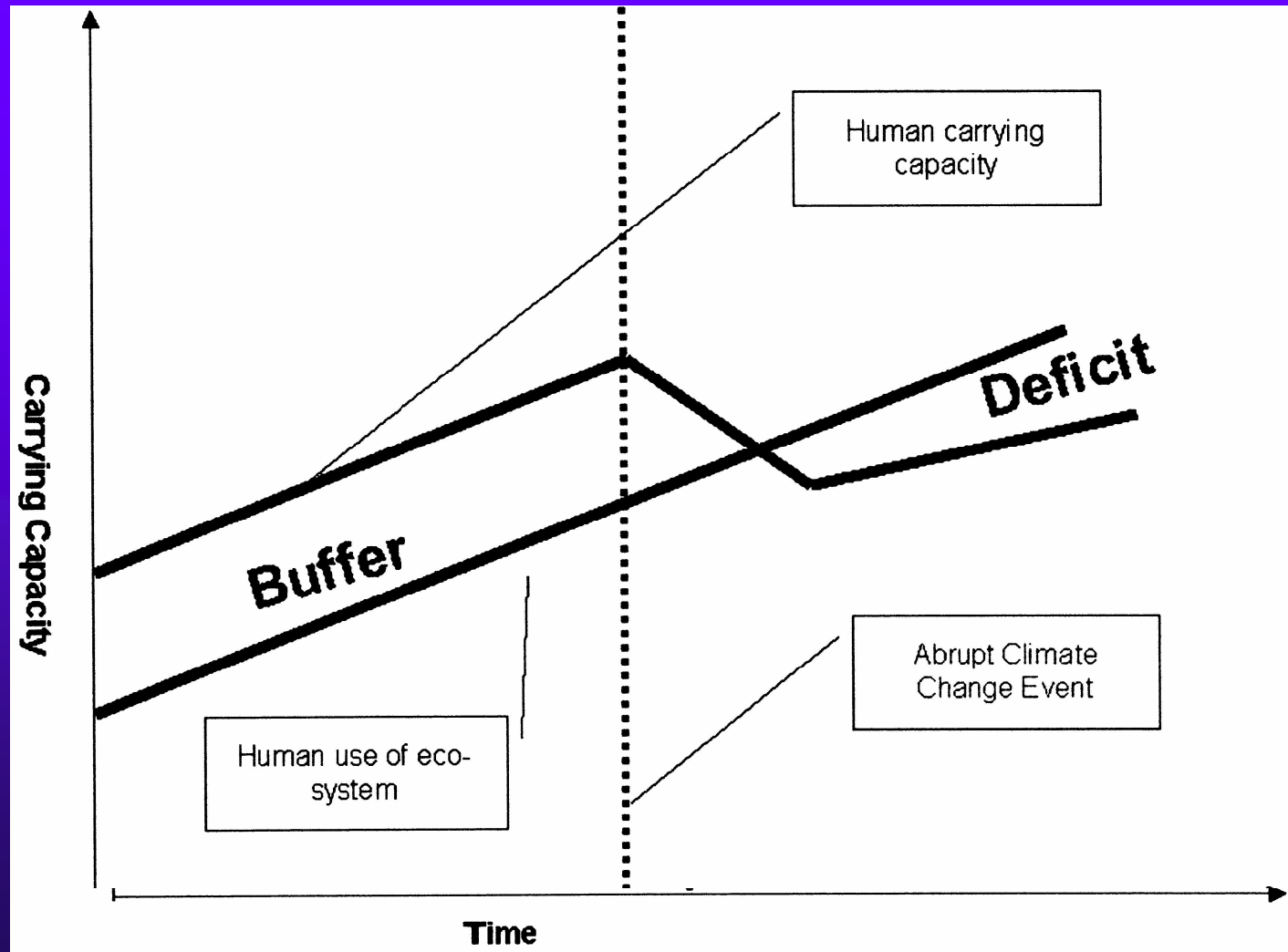
**The Regions: 2010 to 2020**



The above graphic shows a simplified view of the weather patterns portrayed in this scenario.



# 人類の生活継続能力





# PENTAGON-REPORTの世界

- ◆ 世界的な大自然災害の激増
- ◆ 飲料水・農業用水の不足
- ◆ 耕地面積の減少による食料生産の減少
- ◆ 漁場の変動、漁獲量の減少
- ◆ 嵐と流氷による交通・貿易の著しい困難
- ◆ エネルギー危機
- ◆ 資源と難民をめぐる国境紛争の多発
- ◆ サウディアラビア政変への米中の軍事介入



# 日本のシナリオ（軍事大国の自覚はあるか？）

\* 2010年～2020年

- ◆ 自然災害による国際交通困難と輸出の収縮
- ◆ 輸入困難による食糧とエネルギーの欠乏
- ◆ EU市場崩壊によるグローバル企業の打撃
- ◆ 水質汚染による飲料水の不足
- ◆ 沿海部都市の洪水多発
- ◆ エネルギー資源確保を目的に日露提携
- ◆ 難民・資源紛争増大に対処する武装強化
- ◆ 核武装（日、韓、イラン、エジプト、北朝鮮）

\* 2020年～2030年

- ◆ 資源問題をめぐる日中武力衝突

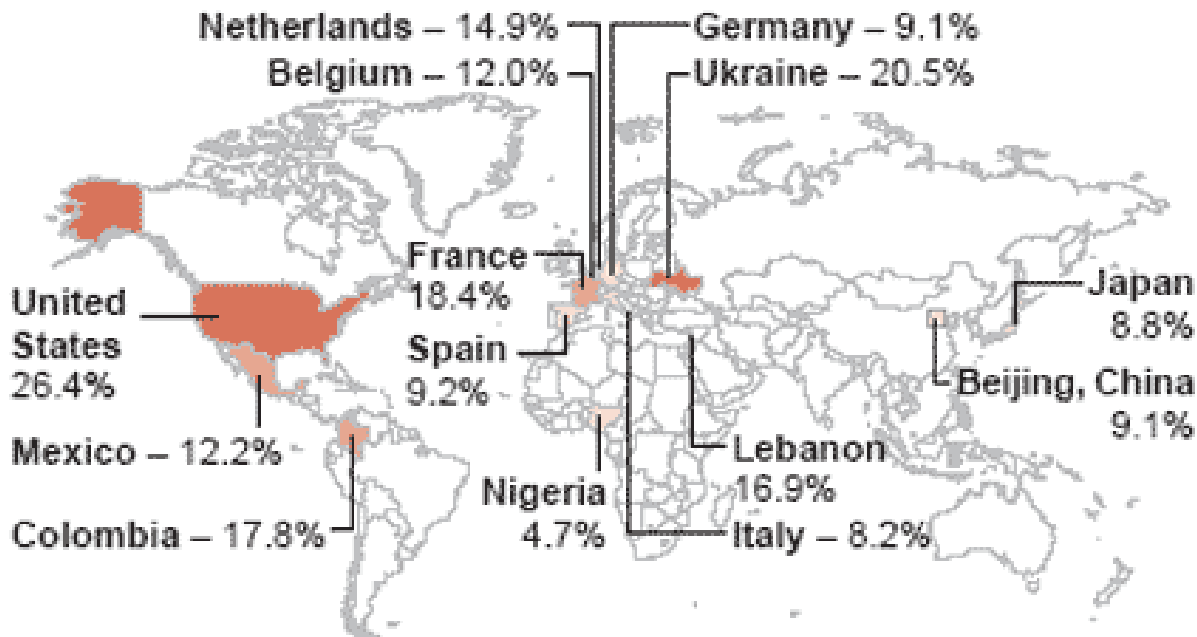
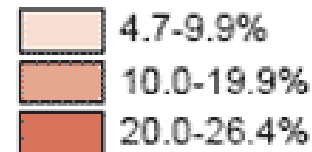
# 世界精神異常地圖

## Mental disorders span the globe

According to surveys of 14 countries, the United States has the highest rate of mental illness.

### Prevalence of mental disorders

(Anxiety, mood disorders, impulse-control, and substance abuse/dependence)





# CSRを生み出したもの

1. グローバリズム
2. 国際的貧富の差
3. 環境問題
4. 情報化社会
5. 社会不安・生活不安
6. エリートへの腐敗と怠慢
7. 企業・経営者・官僚への不信感



# 企業の社会的責任とは？

- ◆ 企業は環境問題においては外部化した「不経済」を内部化しなければならなかった。→環境と経営との結合
- ◆ 企業は産業の発達につれて社会に及ぼした巨大な社会的・経済的・政治的・文化的・道徳的負荷について、自ら進んで「回復（賠償）責任」を負わなければならない。→社会的責任と経営との結合
- ◆ CSRのプロセスを経て市民と企業との「新結合」を実現し、自然環境・生態系の回復、経済の再活性化と「国家」および道徳的社会的防衛に努め、新たな文化の構築をはかり、新しい「公共」の建設に参画しなければならない。→企業価値の向上、企業の生き残り策



# 経済の再活性化とは？

## ◆ Knowledge-based Economy

工業経済→サービス経済→知識経済

<上部構造>

ネットワーク社会

スケールフリー&スモールワールドネットワーク

道徳→Social-Capital(道徳が生産力になる。自覚が欠如した事業者は信頼性に欠け効率を失い衰微する)

「公共」はCompany(市民社会が自ら生み出した組織・NPO/NGO/企業/組合……)の協力組織が担う→自由と民主主義の実現(官僚支配体制の打破)

新しい「公共」構築に参加する企業→真の「企業市民」

<キーワード>

「知」は跳躍する。

→→ Knowledge & Moral-based Economy





## 企業のCSRへの対応

- ◆ 「ビヘイビア」の日常的な開放性(オープンさ)、透明性、公正さの確保
- ◆ インターラクティブな「情報開示」=環境&社会ダイアログの展開
- ◆ 「メタ認知力」あるガバナンスの公正
- ◆ 説明責任の継続的訓練
- ◆ 市民・消費者・従業員の人格の尊重(市民資本主義)
- ◆ 新しい「公共」編成への参画
- ◆ CSRと企業経営の意欲的結合
- ◆ 経営TOPの信条と方針の明示(経営者は決断し、実行し、結果責任をとる)
- ◆ 実効性のあるコンプライアンス体制の構築
- ◆ 能力ある女性の登用



# オープンな経済社会の必要条件

- ◆ ①市場への参入の自由
- ◆ ②消費者主権の確立
- ◆ ③供給者の情報公開
- ◆ ④消費者のプライバシーの秘匿
- ◆ ⑤第三者評価システムの存在
- ◆ ⑥環境・健康・安全・腐敗防止・差別撤廃への社会的共通主観の形成と一貫した取り組み



# 消費者の権利

- ◆ ①知る権利
- ◆ ②適切な選択を行える権利
- ◆ ③環境、安全、健康が確保される権利
- ◆ ④被害の救済が受けられる権利
- ◆ ⑤消費者教育を受ける権利
- ◆ ⑥意見が反映される権利
- ◆ ⑦プライバシーが守られる権利
- ◆ ⑧平等に扱われる権利
- ◆ ⑨子供を守る権利
- ◆ ⑩告発する権利
- ◆ ⑪コミュニティの健全性を守る権利
- ◆ ⑫自然生態系保護とよりよき社会のために行動する権利



# 環境経営とCSRの新結合

- ◆ I. 自然環境をステークホルダーのひとつと考える。(EUモデル)→CSR→希少生物の原告化
- ◆ II. あらゆる企業経営の場面に環境・健康・安全を三位一体で貫く(USAモデル)→BSR
- ◆ III. あらゆる事業経営場面に環境・健康・安全＋Anti-corruptionと反官僚主義および女性の社会進出支援を貫く(MITAモデル)→Corporate-responsibility for sustainability (CRS)
- ◆ IV. IIIのモデルにおいては、事業者・供給者の「自覚」(責任感)が絶対要件



## CSR-principles: in EU

- ◆ ①コミュニティの経済の健全性と持続可能な発展にたいする事業者責任の規範
- ◆ ②従業員の健康安全、コミュニケーション、機会均等
- ◆ ③製品サービスの品質と安全、価格合理性、ニーズへの迅速な対応
- ◆ ④環境と資源への負荷を最低限度にする
- ◆ ⑤主要なステークホルダーへの説明責任
- ◆ ⑥よき経営管理組織と最高水準の企業倫理
- ◆ ⑦上記諸条件を満たした上での公正な株式配当



# BER-principles: in USA-1

## Business for environmental responsibility

- ◆ ①顧客満足度向上、Life-cycleを通じての顧客との関係とEHS(環境・健康・安全)実現への協力
- ◆ ②サステナビリティへのコミットメント、リーダーシップと戦略
- ◆ ③戦略と製品の情報開示、報告書の質当を通じての透明性の確保
- ◆ ④ブランドにおける環境とCSRへの配慮
- ◆ ⑤環境/CSRに関する評判と第三者認証および社会的評価



## BER-principles:USA-2

- ◆ ⑥ サプライチェーンとの環境/CSR協力
- ◆ ⑦ 環境/CSR・NPO/NGOとの協力と環境/CSR産業団体への参加
- ◆ ⑧ 環境技術の開発とエコデザインの促進
- ◆ ⑨ 省資源省エネルギー
- ◆ ⑩ eco-systemへの負荷の最小化
- ◆ ⑪ 従業員の人権への配慮と教育
- ◆ ⑫ EHSのためのイノベーションと節約
- ◆ ⑬ EHS関連技術サービスによる差別化
- ◆ ⑭ 効果的なリスクマネジメントとビジネスチャンスへ対応





# CRS-principles: MITA-MODEL

Corporate-responsibility for sustainability(アウトライン)

- ◆ ①消費者
- ◆ ②戦略、仕組みと機能
- ◆ ③リーダーシップとコミットメント
- ◆ ④透明性と「メタ認知システム」
- ◆ ⑤ブランド価値
- ◆ ⑥社会的評価・信頼性
- ◆ ⑦共同行動とネットワーク
- ◆ ⑧生産供給プロセスとエコプロダクツ・エコデザイン
- ◆ ⑨人的資本と教育
- ◆ ⑩サプライチェーン・マネジメント
- ◆ ⑪イノベーション
- ◆ ⑫リスクマネジメント
- ◆ ⑬コミュニティへの参画

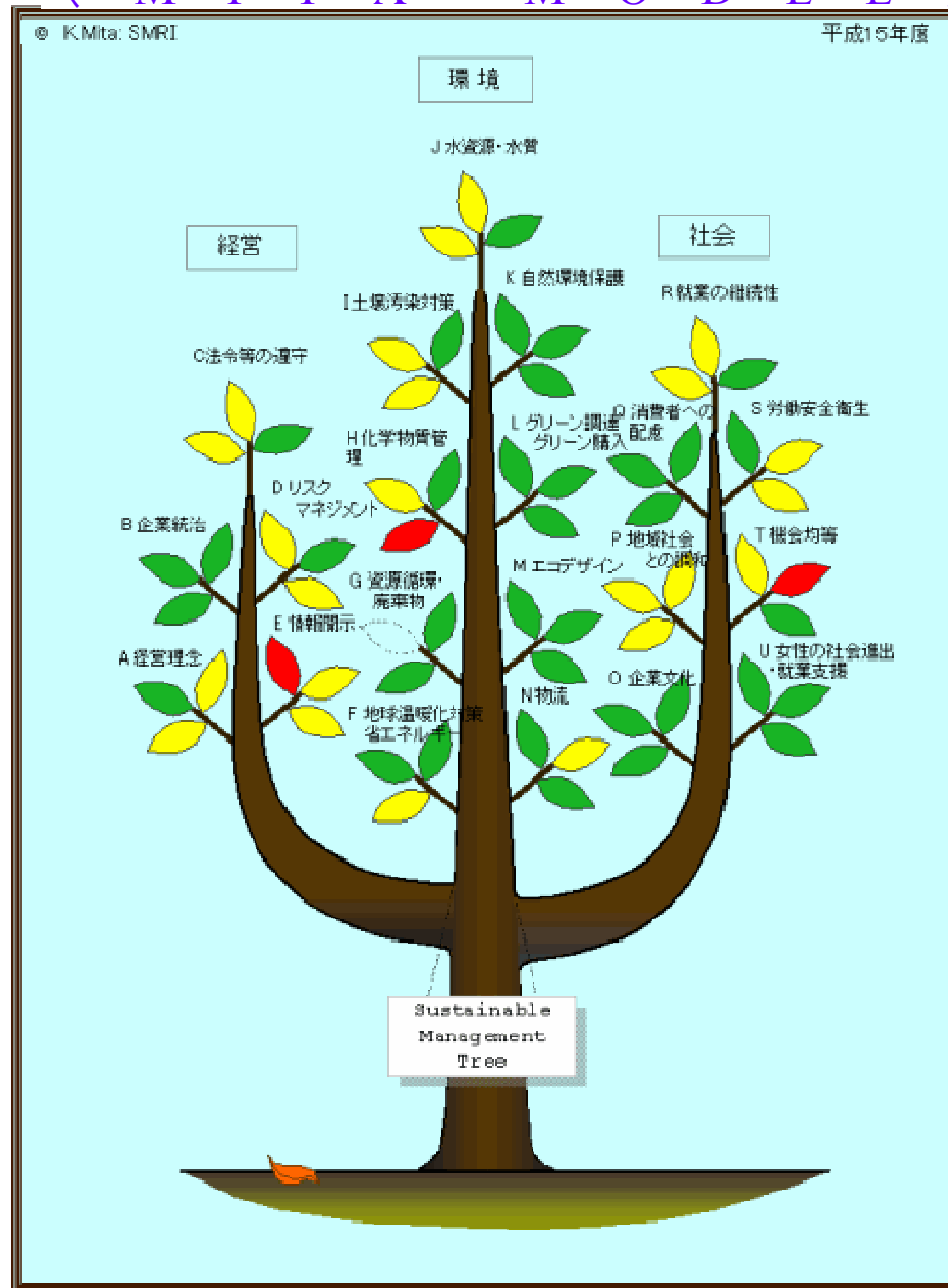




# 社員行動規範の例

- ◆ ①人権の尊重
- ◆ ②利益相反行為の禁止
- ◆ ③私生活の自律
- ◆ ④環境・健康・安全・女性の能力の正当活用
- ◆ ⑤正確な報告・記録と誠実なコミュニケーション
- ◆ ⑥公正な競争
- ◆ ⑦公正な購買実務
- ◆ ⑧贈与提供・受領の制限
- ◆ ⑨公的調達規範の尊重と道徳的対官関係
- ◆ ⑩事業資産の保護と尊重
- ◆ ⑪業務上知りえた情報の私的利用禁止
- ◆ ⑫反社会的勢力との交際の禁止
- ◆ ⑬コミュニティへの参加・協力
- ◆ ⑭事業所内公益問題の告発

# 表現形：環境経営格付ツリー (MITA-MODEL)







# CSRと企業価値の連結

→責任の履行→信頼感の形成→道徳の生産力化

1. 社会を意識した強い経営理念・信条
2. 経営戦略とCSRとの結合
3. アカウンタビリティ(透明性の確保)
4. ダイアログ中心のステークホルダーとの関係
5. 倫理を土台とする企業文化の涵養
6. 市民・「公共」の目線
7. 第三者評価(格付け=触媒)への継続的対応
8. 長期展望(環境経営/CSR戦略)
9. 実効性ある内部監査体制の確立
10. ガバナビリティ(企業は誰のものか?)
11. 社会・市民防衛への責任感
12. 道徳の生産力化戦略→SOCIAL CAPITAL



# 新情勢への対応

→ National & Social Risk対応策  
と

企業防衛策との結合

- ①情報敏感性の涵養
- ②リスクマネジメントの知識と能力の向上
- ③独立自尊の権利主体である市民とのダイアログ  
の精力的推進
- ④コミュニティとの親密性の増進
- ⑤技術開発をコアとした地球環境問題対応の強化





# 新情勢への対応

- ⑥ 緊急事対応体制の整備
- ⑦ 広範なステークホルダーとの信頼関係の構築
- ⑧ 他企業とCSR面での差別化
- ⑨ TOP経営者の強力なリーダーシップ
- ⑩ コンプライアンス対応の促進
- ⑪ 対話装置としてのCSR-Jの早急な結成





# 現在のCSRの問題点

- ◆ 早くも始まったCSRの形骸化
- ◆ 組織あれども機能なし
- ◆ 企業のビヘイビアを評価する仕組みの必要性
- ◆ 法規制によらず自由意志によるCSR
- ◆ CSRに対するアングラ勢力の攻撃
- ◆ CSRを経済界あげて確立しなければ社会の分裂か官僚統制国家への道しかない→ACC世界での「日本沈没」
- ◆ CSRは「帝王学」の課題
- ◆ CSRの基本精神は”noblesse oblige”